

ひらいずみりょく図鑑

～黄金色の未来と暮らしをつむぐまち～

i w a t e / h i r a i z u m i



平泉の地に900年間受け継がれる、平和への願い

平泉の歴史年表

801 延暦20年

征夷大将軍坂上田村麻呂、達谷窟に毘沙門堂を建立（寺伝による）

850 嘉祥3年

慈覚大師円仁、中尊寺と毛越寺を開山（寺伝による）

1056 天喜4年

藤原清衡生まれる

1062 康平5年

前九年合戦が終わり、清衡は出羽（秋田県）清原家に引き取られる

1083 永保3年

後三年合戦がはじまる、抗争のなかで清衡の妻子が殺害される

1087 寛治元年

金沢柵陥落、後三年合戦が終わる

1095 嘉保2年

後三年合戦後、奥六郡を領有していた清衡、このころ平泉に移る

1117 永久5年

清衡が紺紙金銀字一切経写経の業を起こす

1122 保安3年

中尊寺経蔵建立、このころ藤原秀衡が生まれる

1124 天治元年

中尊寺金色堂上棟

1126 大治元年

「鎮護国家大伽藍一区」落慶供養を執り行う（『中尊寺供養願文』）

1128 大治3年

藤原清衡死去（73歳）

1144 天養元年

このころ西行1度目の平泉来訪

1150 久安6年

このころ毛越寺・観自在王院の造営が始まる

1155 久寿2年

藤原泰衡生まれる

1157 保元2年

このころ藤原基衡死去

1159 平治元年

源義経生まれる

1174 承安4年

このころ源義経が鞍馬寺を出奔、平泉に下る

1180 治承4年

源頼朝が伊豆で挙兵、義経は奥州を出て頼朝と対面

1185 文治元年

壇ノ浦で平氏滅亡。頼朝に義経追討の宣旨が下る

1186 文治2年

西行がふたたび平泉に赴く

1187 文治3年

藤原秀衡死去

1189 文治5年

義経自害。源頼朝が大軍を率いて平泉に入る。藤原泰衡、贄柵（比内郡）にて討たれる

1195 建久6年

源頼朝、平泉寺塔の修理を命ずる

1226 嘉禄2年

毛越寺（円隆寺・嘉勝寺）焼亡

1288 正応元年

鎌倉幕府による中尊寺金色堂修復、覆堂建立

1336 建武3年

北畠顕家、平泉に駐在し『中尊寺建立供養願文』を书写

1337 建武4年

中尊寺、野火により伽藍の大半を焼失

1573 元亀4年

観自在王院、毛越寺伽藍を兵火により焼失

1591 天正19年

平泉地方が伊達政宗の支配となる

1683 天和3年

伊達綱村、高館に義経堂を建立

奥州藤原氏初代清衡により、中尊寺金色堂が建立されて900年。戦乱の時代を生きてきた清衡が願い、「平泉の文化遺産」の世界遺産登録の理念にもなっている「平和」と「平等」は、SDGsが目指す世界共通の課題解決に向けた理念にも通じます。町では「第6次平泉町総合計画」にSDGsを取り入れ、17の目標達成を目指しています。



1689 元禄2年

松尾芭蕉、平泉を訪れる（『おくのほそ道』）

1699 元禄12年

仙台藩により金色堂の修理が行われる

1728 享保13年

毛越寺常行堂再建

1760 宝暦10年

相原友直『平泉旧跡志』を著す

1769 明和6年

也蓼禅師、「夏草や」の句碑を建立

1786 天明6年

菅江真澄、平泉を訪れる

1876 明治9年

明治天皇の東北御巡幸、高館・中尊寺に行幸「寺室は永遠に保存するよう」との御言葉

1897 明治30年

金色堂、特別保護建造物に指定される（のちの国宝）

1909 明治42年

中尊寺本堂、再建

1922 大正11年

毛越寺跡、観自在王院跡、無量光院跡が国史跡に指定

1924 大正13年

内務省地理課による平泉遺跡の略調査

1930 昭和5年

毛越寺（円隆寺跡）発掘調査（平泉初の考古学調査）

1950 昭和25年

藤原氏四代の御遺体学術調査を実施

1954 昭和29年

東京大学教授の藤島亥治郎博士らによる「平泉遺跡調査会」の立ち上げ

1979 昭和54年

観自在王院跡整備完了、毛越寺庭園整備始まる

1988 昭和63年

柳之御所遺跡の大規模発掘調査開始（～1993）

1989 昭和63年

毛越寺心本堂落慶

1992 平成4年

柳之御所遺跡を「平泉館」と断定（平泉遺跡群発掘調査指導委員会）

毛越寺庭園の復元整備が完了

2001 平成13年

「平泉の文化遺産」世界遺産登録暫定リスト登載

2006 平成18年

「平泉の文化遺産」に関する推薦書をユネスコ世界遺産センターに提出

2008 平成20年

第32回世界遺産委員会にて登録延期が決定

2011 平成23年

「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」ユネスコ世界遺産に登録

2019 令和元年

「みちのくGOLD浪漫－黄金の国ジパング、産金ほけまりの地をたどる－」日本遺産に認定

2023 令和5年

平泉町長島地区を含む「東稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム」が日本農業遺産に認定

2024 令和6年

中尊寺金色堂建立900年

ひらいずみりよく図鑑

～ 黄金色の未来と暮らしをつむぐまち～

i w a t e / h i r a i z u m i

岩手県平泉町町勢要覧 2024

目次

- 02 まちの輝き①世界遺産
- 04 まちの輝き②歴史と自然
- 06 まちの輝き③風景
- 08 まちの輝き④伝統
- 10 まちの輝き⑤未来
- 12 まちの輝き⑥交流
- 14 INTERVIEW 町長に聞く
- 16 平泉ってこんなまち 町の概要
- 18 平泉町の特産品
- 19 Uターン・Iターン情報
- 20 平泉ってこんなまち 移住者インタビュー
- 22 平泉ってこんなまち にぎわいと交流
- 24 平泉ってこんなまち 子育て世代に優しいまち
- 26 平泉ってこんなまち 食と農の景勝地
- 27 平泉ってこんなまち 平泉の農作物
- 28 平泉ってこんなまち 暮らしやすいまち
- 30 平泉ってこんなまち 遺跡と歴史のまち
- 32 平泉友好の絆



まちの輝き ①世界遺産

世界遺産平泉

平泉町の四つの遺産(1)

藤原清衡が描いた浄土は今もお鮮やかに残り、この町で暮らす人々の心を支えています。

中尊寺の国宝・金色堂。1124（天治元）年に上棟されたもので、柱から長押にいたるまで螺鈿細工や蒔絵など平安時代後期の工芸技術が結集し、須弥壇には奥州藤原氏初代清衡公から四代泰衡公までのご遺体が納められています。2024（令和6）年には建立900年を記念して、東京国立博物館で「特別展 中尊寺金色堂」が開催され、中央壇の国宝仏像11体が公開されました



中尊寺



毛越寺



観自在王院跡



無量光院跡



金鶏山



柳之御所遺跡

1951(昭和26)年に、国宝建造物第1号の指定を受けた中尊寺金色堂。あやめや萩が咲く四季折々の美しさを誇る浄土庭園で知られる毛越寺と、隣接する観自在王院跡。無量光院跡は寺院の中心線を金鶏山と結び、稜線に沈む夕日に極楽浄土を重ねた浄土庭園の最高傑作とも言われています。『おくのほそ道』で松尾芭蕉は「秀衡が跡は田野になりて 金鶏山のみ形を残す」と記しました

2011(平成23)年6月、フランスのパリで開催された第35回世界遺産委員会において、「平泉-仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群-」がユネスコ世界文化遺産に登録されました。登録資産は中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山の5つです。

中尊寺は、850(嘉祥3)年比叡山延暦寺の高僧慈覚大師円仁によって開かれ、12世紀の始めに奥州藤原氏初代清衡公によって大規模な堂塔造営が行われました。同じく円仁が開山した毛越寺は、二代基衡公、三代秀衡

公の時代に多くの伽藍が造営されています。平泉の遺跡群は東北地方で続いた戦乱で亡くなった人々の魂を敵味方なく弔い、この地に仏国土(仏の教えによる平和な理想社会)を築こうとするものです。これらは海外の仏教施設などから影響を受けつつ日本で独自の発展を遂げており、仏堂・庭園を浄土に見立てるなど他に類を見ない理想世界の表現や、日本人の自然観や伝統的思想の元となる遺跡群として、東北から日本文化の価値を伝える存在として高く評価されています。

世界遺産登録以降も、平泉町の柳之御所遺跡、達谷窟のほか、一関市の骨寺村荘園遺跡、奥州市の長者ヶ原廃寺跡、白鳥館遺跡などの関連資産を「ひらいずみ遺産」と位置付けて調査を継続しています。現在、岩手県や関係機関と共同で柳之御所遺跡の追加登録を目指した推薦書の作成を進めており、新たな構成資産の誕生に期待が高まっています。

平泉が誇る遺産

町の自然とそこに生きてきた人々の歴史が一体となり、平泉の豊かな景観を造り出しています。



平泉町長島地区、奥州市生母地区、一関市舞川地区にまたがる東稲山麓地域。北上川の洪水などの気象変動や、時代や社会経済の変化に適応しながら生計を保障する、伝統的かつ持続可能で優れた農林業のシステムが評価されました

平泉町の四つの遺産(2)

日本農業遺産「^{たば しね}東稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム」

2023(令和5)年1月に「災害から生命と生活を守り未来へつなぐ『東稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム』』として、日本農業遺産に認定された東稲(たばしね)山麓地域。北上川の洪水が頻発した同地域において、山地・山麓地・低平地を分散

して所有することで、洪水や干ばつのリスクを最小限に抑え、地域一体で水源管理や森林保全に取り組む独自の農林業システムが歴史的に継承されてきました。東稲山のランドスケープは地域の象徴として親しまれ、西行桜の森などの観光スポットが生まれ、

6次産業化の推進によって新たな特産物が誕生したりもしています。

2023(令和5)年9月には公募によってロゴマークが決定。今後はロゴマークで東稲山麓地域の物産をPRするなど、認定をスタート地点に地域の魅力を発信していきます。

「平泉町の四つの遺産」

ユネスコ世界文化遺産、日本農業遺産、世界かんがい施設遺産、日本遺産の、四つの遺産がそろうのは全国でも平泉町のみ。観光はもちろん、商業や農業などの産業の振興と、町の資源である四つの遺産を結びつけたまちづくりに取り組んでいます。



みちのく GOLD 浪ろまん漫

黄金の国ジパング、
産金はじまりの地をたどる



JAPAN HERITAGE
日本遺産

平泉町の四つの遺産(4)

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」

現在の岩手県や宮城県を含む「みちのく」とも呼ばれるこの地が生んだ“金”は富の象徴のみならず、東大寺の大仏や中尊寺金色堂を彩り、祈りの対象として人々の心に光を灯してきました。平泉町を含む3市3町では、時代とともに幾重にも結び付き、独自の文化や信仰、産業へと昇華した“金”と人々の縁を、「みちのくGOLD浪漫」と名付け、価値や魅力の掘り起こしを始めています。

※「日本遺産 (JapanHeritage)」とは、地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (JapanHeritage)」として文化庁が認定する制度です。



日本遺産「みちのくGOLD浪漫」構成市町

平泉町の四つの遺産(3)

世界かんがい施設遺産「^{てるいぜき}照井堰用水」

奥州藤原氏が平泉の地を治めていた平安時代末期。各寺院に造営された大きな池を満たすために造られたのが、照井堰用水の始まりだと言われます。多くの人が暮らす大都市であった平泉では、新田開発が盛んに行われたものの水源に乏しく、三代秀衡公の家臣照井太郎高春は磐

井川に穴堰を開削しました。その後、高春の子孫らがその遺志を継ぎ、下流の村々に至る水路を作って照井堰用水を完成させました。数百年もの長きに渡りかんがい施設が大切に受け継がれていることは世界的にも珍しく、2016(平成28)年に「世界かんがい施設遺産」に登録されています。

毛越寺の脇や堰沿いにはトレイルルートが設置されています。トレイルイベント「水土里ウォークin照井堰用水」、現地を歩きながら開削の歴史や水路が持つ役割などを学ぶことができるとあって毎回好評な人気のイベントとなっています

まちの輝き ③風景

おくのほそ道の風景地「さくら山」

松尾芭蕉や西行法師が名句を残した地の、当時の風景に思いをはせる地元の取り組み。





吉野山に比肩する桜名所と詠われた西行桜の森。松尾芭蕉は高館からさくら山や金鷄山を望み、古の人々への思いや世の無常感を込めて「夏草や 兵どもが夢の跡」と詠みました。周辺にはキャンプ場のほか、1時間半ほどの「西行桜の森ウォーキングルート」があり、桜やアジサイ、カタクリなど季節の花々が楽しめます

松尾芭蕉『おくのほそ道』に関連する国指定の名勝「おくのほそ道の風景地」には、2014(平成26)年指定の「金鷄山」と「高館」に加えて2015(平成27)年に「さくら山」が指定されています。「さくら山」は標高594.9mの東稲山のことを指し、山腹一帯には「西行桜の森」が広がります。西行桜の森にはかつて藤原氏初代清衡の祖父、安倍頼時が1万本もの桜を植えたと伝わっており、平泉を二度訪れた西行法師が「ききもせず 東稲山のさくら

花 よし野のほかに かかるべしとは (奈良の吉野山のほかに、これほど見事な桜が見られるとは思ってもよらなかった)」と詠んだほどの桜の名所でありました。

国名勝の指定を受けて地元では「東稲山さくらの会」が発足、小学生らと共に毎年桜の植樹会を行っており、オオヤマザクラなど10種、約2,500本の桜が咲き誇ります。西行の時代の風景に思いをはせる桜の名所「さくら山」に、平泉の春を感じに訪れてみませんか。

まちの輝き ④ 伝統

伝統をつなぐ人たち

たっこくのいわやびしゃもんかぐら たがしらさんねんぶつ
達谷窟毘沙門神楽に田頭讚念仏などの伝統芸能、
伝統工芸の秀衡塗を、未来に継承していく。

地域に根づく 神楽を未来へ

達谷窟毘沙門神楽
洞取 照井 久美さん



達谷窟毘沙門神楽は毘沙門堂に古くから伝わる奉納神楽です。明治維新で修験の制度が廃止され、演劇色の強い所謂南部神楽として地域の人々により伝え継がれてきました。祖父が旗上げ役となり地域の幼稚園児への伝承を始めてからは女性の参加も増え、現在は10代から70代の幅広い世代で伝承活動を続けています。平成27年度に町教育委員会主催で「郷土芸能体験講座」が



開講されてからは、町内の小中学生への指導をしています。「やっていて楽しい」「地域の人に見てもらおうと誇りに感じる」という声を聞くと励みになります。子どもたちがこの伝統を引き継ぎ、伝えていってほしいと願っています。



2023 (令和5) 年11月の「第50回ひらいずみ産業まつり」では、会場となった観自在王院跡にて達谷窟毘沙門神楽をはじめとする郷土芸能が披露されました



長島の東松寺をホームグラウンドに、申し人（もうしと）4人と、2組の子どもたち4人が活動している田頭讚念仏保存会



長島の念仏を平泉全体で盛り上げたい

田頭讚念仏保存会
会長 浅利和昭さん



田頭讚念仏は、長島の東松寺に約250年前から伝わる念仏踊りです。毎年8月15日、初盆を迎えた家やお墓の前で踊りや太鼓、念仏をして、亡くなった人を供養します。最近では親戚や隣近所で葬儀をすることが減り、初盆の念仏も年々少なくなっています。今後は長島だけではなく、平泉町全体で多くの人に知って頂き、若い人にもどんどん参加してほしいです。地域の伝統芸能を次の世代へ伝えるために盛り上げていきたいと思っています。



翁知屋 5代目 佐々木 優弥さん

藤原氏を起源とする秀衡塗

秀衡塗は、奥州藤原氏三代秀衡公が京から職人を招き、岩手特産の漆と金を使った器を作らせたのが起源と言われます。伝統工芸品の指定を受けている昔ながらの秀衡塗のほか、翁知屋ではお客様の要望に合わせたオーダー品や、うるし塗体験にも力を入れています。体験や勉強会を通じて、漆と金箔で作られた金色堂を見学するときの視点が広がったり、品物への理解が深まったり、物を売って終わりではない関わりが生まれています。平安時代の最新技術を結集したのが秀衡塗であったように、現代でもAIやプログラミングなどの最新技術と連動させた漆器など、新しいアイデアに挑戦しながら、仕事の楽しさを若い世代にも伝えていけたらと思っています。



秀衡塗は菱形の金箔と源氏雲や草花を組み合わせた縁起の良い漆絵がほどこされ、素朴ながら華麗な味わいが特徴



まちの輝き ⑤未来

世界遺産のまちを担う子どもたち

文化遺産の価値を知り、これからの平泉について自ら考え、発信する力を育む「平泉学」。

平泉中学校の3年生は、自分たちで役割分担を決めて行うガイド体験に取り組みます。これまで学習してきた平泉について、伝えたい点などを自分達で考えながらガイドの内容を決めています。生徒たちは緊張しながらも一生懸命にガイドを務めます

平泉町は、地域学習と世界遺産学習の2つのテーマについて、幼稚園や保育所、小学校、中学校の年代別に系統立てた学習プログラム「平泉学」を実践しています。幼児を対象にしたプログラムでは平泉にもゆかりの深い伝統芸能「能」から「謡」を体験します。「鞍馬天狗」と「老松」の2つの謡曲を稽古して、秋の藤原まつりなど町内のイベントで披露します。小学校高学年と中学生は、発掘体験や座禅体験を行う他、地域の産業や祭りについて学びます。中学校では1年次には平泉学検定やテキスト学習での学びを行い、2年次には東稲山の夏の風物詩「平泉大文字送り火」の火床作りに参加します。3年次には集大成として、学習の成果を観光客に伝える

ガイド体験を行います。町が持つ本当の魅力とその価値を知ることによって、子どもたちの心の中に郷土愛が芽生えていきます。

毎年夏には、小学生が町の特産品「黄金メロン」の収穫体験も。ずっしりとしたメロンの重さや、給食で提供されるメロンの味わいを体感し、産業や特産品への理解や愛着を深めます。

2024（令和6）年には町と中学生とが共同で「ひらいずみのSDGs」のロゴマークを制作。子どもたちとともに、持続可能なまちづくりについて考える機会になりました。



平泉町立幼稚園、平泉保育所による「謡」では、伝統文化に触れることで平泉を理解する心を育みます



上:「中学生アイデア実現プロジェクト」の活動を通じて、中学生たちが町のSDGsロゴマークを作成しました

下:黄金メロンの収穫体験を通じて、町の産業や特産品への学びを深めます

伝統行事の「平泉大文字送り火」の火床づくり。薪を積み上げた64基の火床が駒形峰に「大」の炎文字を浮かび上がらせます

平泉を盛り上げる人たち

地域おこし協力隊、スパルタキャンプなどを通じて、平泉町を盛り上げる若者たちがいます。



「食、祭り、歴史に四季。平泉はネタの宝庫」

平泉町地域おこし協力隊 こしの せいか 河野 綾華さん

初めて岩手を訪れたのが、2022（令和4）年の夏。友人を訪ねて盛岡や陸前高田、そして平泉を巡りました。食べることが好きな私は、岩手で出会った食材の美味しさと、こんなに美味しいのに十分にPRがされていないことに驚きました。そして食材のPRが仕事になるのではと考え「平泉で働きたい」と思いました。すぐに役場を訪ねて、移住支援や起業について相談をし、翌年春には地域おこし協力隊として平泉町に移り住んでいました。

現在は特産品を作ること、発信することを目標に、「がんづき※」をアレンジしたり、地元の米粉を使ったグルテンフリーの焼き菓子を試作する日々を送っています。元々取り組んでいたダンスでイベントに出たり、平泉のまちを着物で歩くイベントを開催したりもしています。今の目標は町なかにカフェを作ること。平泉町の良いものが集まったり、観光や町歩きの拠点として若い人が集まるカフェが出来たらいいなと考えています。

「歴史ある平泉の街なみを着物で歩いたら素敵！」というアイデアから、着物で歩けるモデルコースを考案しイベントを開催しました

※がんづき…岩手県南地域などで食べられている蒸しパンのような郷土菓子





「地域で活躍できる若いデジタル人材を育成」

平泉町地域おこし協力隊 やまうち あや 山内 彩さん

東京で勤めていたIT系の会社が、コロナ禍でテレワークになったことをきっかけに町のスパルタキャンプに参加しました。東京では事業の規模が大きく、自分が何をやっているか分からない中で仕事をしていました。平泉に来てみたらすぐ目の前に課題があり、自分が携わることによって改善できる課題があると感じました。東京よりも平泉での仕事が楽しくなり、スパルタキャンプ※参加から約10ヶ月後の2023(令和5)年春に、地域おこし協力隊として移住しました。

現在は、町のデジタル化を推進するために事業者などをめぐり、ホームページ作りの相談からスマートフォンの使い方まで、何でも相談に乗っています。小さい町なので人とのつながりが全てだと思い、飲み会にもよく参加しています。地域の若いデジタル人材を育成するため、隣の一関市で学校の立ち上げにも参画しています。ITやプログラミングに興味のある方は、私を見かけたらぜひ声をかけてくださいね。

※スパルタキャンプ・・・平泉町が町内の企業と共同でデジタル人材の育成のために開催している短期集中型のプログラミング講座



「スパルタキャンプを通じて自分を変えたかった」

スパルタキャンプ in 平泉町 2023 年受講者 みやひら しょうた 宮平 聖太さん

IT技術を起業に役立てるため、短期間でプログラミングを学べるスパルタキャンプに応募したのが平泉町と関わるきっかけです。ITの知識を得られて、他の参加者や町の人との関わりも生まれて楽しかったのですが、「楽しい」だけでは終わらせたくなかったです。自分の中の何かを変えたいという気持ちが働いて音楽イベント「BANG BANG FESTIVAL 2023」を企画しました。レコード会社で働いていた経験を生かした企画でしたが、平泉なら個人でもイベントビジネスを旗揚げできる感触を得ました。

現在は横浜と平泉の2拠点生活を行っています。イベントを事業の柱にして、平泉の音楽文化の発展につながる活動や、企業を対象にした事業などを行う予定です。合唱や吹奏楽など学校との関わりも深められたらと考えています。イベントで町が華やかになるのは短期間ですが、活動を続けることで少しずつ平泉がきらびやかに豊かになったらと思います。

町学習交流施設「エピカ」で開催した音楽イベントには、スパルタキャンプで出会った山内彩さんと共にバンド出演も行った

若者世代の意見を取り入れ、
周辺市町村とスクラムを組みながら
地域を発信していく



平泉町長
青木 幸保

INTERVIEW

町長に聞く



2023(令和5)年1月、「東稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム」が日本農業遺産に認定されました。平泉町と奥州市、一関市そして岩手県が一体となって、三度目のチャレンジで念願が叶ったものです。チャレンジを積み上げることそのものが地域の文化や歴史を掘り起こし、地域間の共同作業をすすめる機会にもなり、後世に伝える意義の深い貴重な経験となったと感じています。

2021(令和3)年に開通した平泉スマートインターチェンジの周辺開発については、子育て支援と、若者の雇用の創出につながるさまざまなアイデアを聞きながら集約段階に入っていくところです。地元の人だけでなく、周辺エリアからも家族連れが来て子どもが遊べる

ような子育て支援施設を目指しており、屋内外で遊べるアスレチックなどの遊具のほか、イチゴ狩りなどのような農業体験が出来たら良いという意見もあります。若い世代の雇用にもつながるので、若い人たちの意見を取り入れて進めていきます。

2024(令和6)年4月からは、保健センターの2階に新たに「子育て支援課」を設置します。子育てをする人は誰もが一年生です。みんなが通る「初めて」を支援できるように、妊産婦から自由に出入りがしやすく相談できる課にしていきます。これまでも町民福祉課と保健センターなどによる包括支援を行ってききましたが、今後は子育て支援課に一本化して対応します。

2011(平成23)年の世界遺産登録から12年が経過

しました。登録以降も平泉町と一関市、奥州市では関連資産の調査を続けています。このほど調査結果を取りまとめ、新たに柳之御所遺跡の追加登録を目指し申請を行うことが決定しました。登録当初から「なぜ柳之御所遺跡が外れるのか」と疑問の声も上がっていましたが、無量光院跡と政庁である柳之御所跡をつなぐ橋跡が新たに発掘されたことで、遺跡のつながりを海外の専門家にも理解してもらえと思っています。

2024年には東京国立博物館での「中尊寺金色堂」特別展も開催されており、「コロナ後」となりつつある今こそ新たな物を発信していく契機です。東北全体にインバウンド(訪日客)需要も含めた人の流れを引き込み、広げていくきっかけになることを期待しています。





輝きのまち平泉で暮らしてみる

岩手県南に位置する平泉町。町の中心部を国道や鉄道が通るアクセスの良さも特徴です。

世界遺産のまち平泉で暮らしてみませんか。

町の概要

位置

岩手県の南部に位置し、一関市と奥州市に隣接しています。

地形

北上盆地を挟んで、東に束稲山を主峰とする500m級の連山、西に奥羽山脈から張り出す平泉丘陵があります。盆地の中央を北上川が流れます。

気候

内陸型気候。平均気温は11.5℃とやや低いものの、4～10月は温暖です。

土地

山林原野48.2%、耕地25.9%となっています。北上川沿いの沖積地と山地暖斜面を利用して、古くから「米作プラス商業的畑作」という複合経営が営まれています。

交通

国道4号、JR東北本線が南北に通り、平泉駅前を中心に民家や商店が立ち並びます。国道4号の西沿いを東北自動車道が通っています。

特色

平泉丘陵の東端に平安末期の中尊寺・毛越寺・無量光院など藤原三代の遺跡・文化が多く残っています。

DATA

人口

6,822人（2024年2月29日現在）

世帯数

2,601世帯（2024年2月29日現在）

年間平均気温

1月の平均気温 -0.1℃

8月の平均気温 24.2℃

（直近の一関地点を参照）

交通

鉄道：JR東北本線「平泉駅」

路線バス：岩手県交通、東磐交通

高速バス：東日本急行

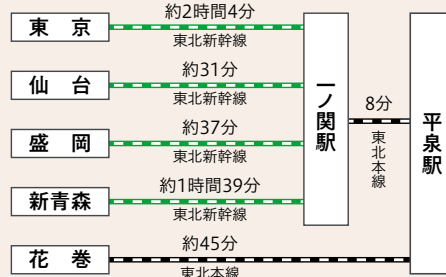
高速道路：東北自動車道

「平泉スマートIC」

「平泉前沢IC」

ACCESS to HIRAIZUMI

■鉄道

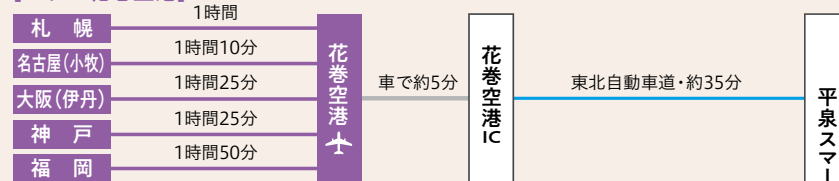


■高速道路

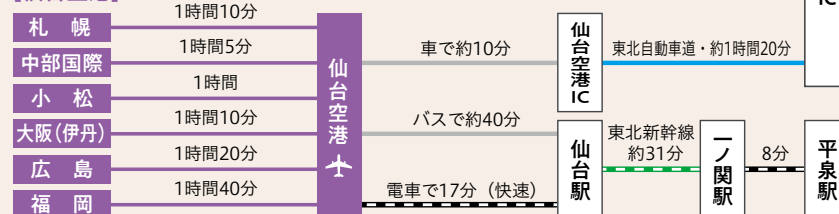


■飛行機

[いわて花巻空港]



[仙台空港]





10月下旬~11月中旬
中尊寺紅葉銀河



1月20日
毛越寺二十日夜祭



5月1~5日
春の藤原まつり

歳時記

Event
Schedule



8月14日
中尊寺薪能



7月中旬
平泉水かけ神輿



5月第4日曜日
毛越寺曲水の宴



ふるさと納税

秀衡塗

中尊寺金色堂にも使われた、漆や金箔の技術を用いた伝統の漆器。菱形の金箔や漆で描かれた草花紋様の華やかな碗が特徴です。



ふるさと納税

大文字りんご

東稲山麓の日当たりの良い傾斜地で、ヨーグルト菌を使って栽培される大文字りんご。大ぶりで蜜入りの美味しいりんごが育ちます。



ふるさと納税

米

県南地域で栽培される、黄金文化と実りの稲穂をイメージした「金色の風」は、岩手県が10年の歳月をかけて開発した最高級米。



ヤーコン

フラクトオリゴ糖をたっぷり含む低カロリーな健康野菜として注目されているヤーコン。栽培拡大と商品開発に取り組んでいます。



ふるさと納税

ワイン

平泉町産ぶどうを町内のワイナリーで仕込んだ「平泉ワイン Ora (オラ)」。キャンベルやナイアガラ、山ブドウなど種類豊富。

平泉町の

特産品

豊かな自然と歴史や文化に育まれた平泉の特産品。米や野菜、果実などの農産物に、それらを地元で加工した6次産業グルメなど、平泉ならではの魅力をお楽しみください。

ふるさと納税
ふるさと納税
返礼品

フラクトオリゴ糖やポリフェノールを含む高機能食材として注目されている「ヤーコン」。可能性を秘めたヤーコンを平泉ブランドとして高めるために、地域の栽培や加工をはじめ、商品化や安定した流通を目指しています。ヤーコンを通じて、平泉に昔から伝わる技術が次世代につながるように、共創の輪を広げていきたいです。見かけたら「ヤーコンのやっちゃん」と呼んでください！

平泉町地域おこし協力隊
新井 泰雄さん



ふるさと納税

どぶろく

平泉町産ひとめぼれ100%のどぶろく。「一音(いっとな)」、ピンク色の「よらく」はまろやかなうまみを味わえます。



ふるさと納税

黄金メロン

平泉の黄金文化にちなんで名付けられた「黄金メロン」は、1株に1玉のみを実らせて栽培。糖度が高く艶やかな果肉が特徴です。



和からし

長島地区で古くから栽培されてきた、強烈な辛味と風味のある和からし。道の駅平泉では和からしソフトが販売されています。



銘菓

黄金文化を表した「平泉黄金餅」、奥深い黒糖蜜の生地であんを包んだ「かりんとうまんじゅう」、「弁慶力餅」などお土産に最適。

Uターン・Iターン情報

歴史と自然に囲まれ、観光地ならではの人の温かさがある平泉町。

町での暮らしに興味のある方は「平泉町役場」までお問い合わせください。



Q1. 雪の量はどれくらい？

A1. 内陸性の気候で、岩手県内では温暖な地域です。積雪は少なく住みやすい地域だといえます。

Q2. どんな産業があるの？

A2. 基幹産業は農業で、特産品の開発や6次産業化に取り組んでいます。世界遺産の町として観光業も盛んなほか、町内には工業団地もあります。



Q3. 病院はありますか？

A3. 内科と歯科があります。また、平泉町役場から車で約15分ほどの場所に広域中核病院である岩手県立磐井病院があるほか、一関市内の医療施設と提携しています。



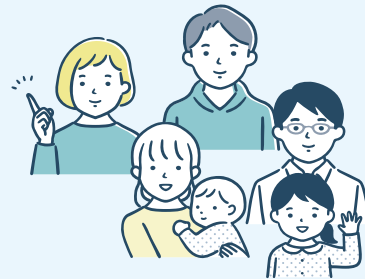
Q4. 生活に必要なものは？

A4. 平泉スマートICや平泉前沢ICがあり、車での長距離のお出かけに便利です。買い物や通勤などにも自家用車が便利です。



Q5. 地域にうまく溶けこめるかな？

A5. 若い世代の移住者が多く、あらゆる産業やイベントなどで活躍しています。町内のさまざまなイベントなどに参加してみてください。



Q6. 買い物をする場所は？

A6. スーパー、ドラッグストア、ホームセンター、コンビニなどがあり、食料品や日用品の買い物には困りません。



Q7. 幼稚園・保育園や学校はありますか？

A7. 平泉町立幼稚園、町立の平泉保育所・長島保育所と、平泉小学校、長島小学校、平泉中学校があります。



■移住支援制度

●移住支援金

東京23区内に居住または通勤していた方の移住(世帯:100万円、単身:60万円)を補助します。子育て世帯には100万円を加算します。

●平泉町若者・移住者

空き家住まい支援事業費補助金

移住者が空き家を購入、または購入し改修する場合に補助します。

●お試し居住体験事業

町外からの移住定住希望者に家電付き町営住宅を低廉な家賃で貸し出します。

●新規就農者支援事業費補助金

町内に住所がある18~59歳の新規就農者に研修支援金と居住支援金を交付します。

●町営住宅活用促進事業

若者に対してWi-Fi環境を整備した町営住宅を貸し出します。

●移住定住促進家賃補助金

県外から町内に転入し、町内に勤務する正社員に、家賃の一部を補助します。

■起業する方向け

●空き店舗対策事業費補助金

出店した際の賃借料を1/2(補助額など上限あり)を補助します。

●店舗リフォーム促進支援事業補助金

町内業者に依頼する改修経費の1/2(補助額など上限あり)を補助します。

●起業・事業承継支援事業費補助金

町内で起業・事業承継する際の経費の1/2(50万円上限、UIターン者は100万円上限)を補助します。

●鈴沢スタートアップオフィス

町内で起業する場合に、登記可能なシェアオフィスを貸し出します。

Uターン

自然や人と隣り合う食と、思い切り遊ぶ子どもの姿が日常の風景に

SATO オーナー 佐藤 渉さん

大学進学をきっかけに埼玉で暮らしていましたが、結婚して第一子が生まれるタイミングでUターンしました。岩手出身の妻とは関東で出会い、30歳前後には地元に戻ろうと話していました。

現在は平泉駅前でカフェを営んでいます。都会では作り手の都合で食材を仕入れますが、ここでは人は自然より優位には立てません。「山菜が大量にあるから今日はこれを使おう」という具合です。地元で手に入る野菜や果物、山菜など、旬の食材の顔ぶれをみて料理を考える時間を大切にしています。料理からお客さんが季節を知ったり、食材からコミュニケーションが生まれるような店になったらと思っています。

住まいは駅から近い町の中心部なので、店に通うのも子どもたちの通学も楽

ですが、平泉で生活するためには車は必須アイテムです。車さえあれば買い物も病院も行けますし、生活に不便は感じていません。岩手県の中では積雪も少ないので、雪かきに追われるようなこともないですね。

小学生と幼稚園の子どもがいますが、町のいろんな世代の大人たちに見守られて大きくなっていくのを実感し、そのことに心地よさを感じています。娘は学童にはまっていて、放課後は汗だくになってけん玉で遊んでいます。インターネットやゲームだけじゃなく、体全体で思い切り遊ぶ姿がとても良いです。学校では体験できないことをやらせようという学童の心意気も素晴らしく、本物の竹を割って流しそうめんをやったり、芋掘りをして焼き芋を作ったり、大人も外遊びで一生

「今の仕事はビジネスではなく、生業(なりわい)だと考えていて、自分自身が美味しいと思うから出す、自分がやりたいからやる。自分が主語になれる店にしたい」と渉さん

佐藤さんは妻の明美(あけみ)さんと、長女の風希(ふうき)さん、長男の旺太(おうた)さんの4人家族。風希さんと旺太さんは「お店が好き、デザインが好き!」と笑顔



平泉ってまち
シムナリ

移住者インタビュー 平泉の

懸念相手になってくれたり、いろんな価値観を浴びせてもらっています。

飲食を生業(なりわい)としているので、平泉町の小学校と幼稚園に給食室があるというのもとても良いと感じています。作る人と食べる人が同じ建物にいて「いただきます」が言える、食材の生産者の顔までが見える給食は素晴らしい。給食のメニューには郷土食があったり、ガパオやヤンニョムチキンなど世界の献立が並んだり、食べる楽しさも考えてくれているのが伝わります。

平泉町には、都会のように便利な遊び

場やおしゃれな店はありません。私も高校生まで平泉で育ち、洋服を買いに仙台まで出かけたっていたので、子どもや若者にとって刺激が少ないのは分かります。子どもたちを盛岡の大きなショッピングモールに連れていくと楽しんでいる気持ちもよく分かります。しかし、自然が多い、空が高い。そして900年前の歴史が遺る町である。そういった環境に唯一無二の魅力を感じるのです。





魅力とここに住む理由

東京で仕事をしていた頃、ワイン好きが高じて長野県の千曲川ワインアカデミーに通っていました。ブドウの栽培やワイン造りは知れば知るほど難しく、私にはワイン造りは無理だと感じていました。そんな中、アカデミーの知人から「岩手県の平泉というところでワインを造る人を探している、興味があったら目黒にあるパン屋『ワルン・ロティ』の大和田聡子さんを訪ねてみて」と言われ、たまたま近くに用事があったので大和田さんを訪ねたところ、「来週岩手で集まりがあるから来ない？」と誘われ、あれよあれよとい

う間に岩手を訪れていました。コロナ禍でずっと遠出をしない日々を送っていたこともあり、久しぶりに新幹線で旅行気分を味わいたいと思うようなタイミングでもありました。

岩手で平泉町役場の方々と会い、「この人たちは本当に困っているんだな」と感じました。ワインを飲むのが好きなので作ったことはないけれど……という私に、「来てくれるだけでいいから」とバックアップを約束してくれたアグリ平泉前代表の言葉にも押され、平泉に移住することを決めました。昔から転職や

1 ターン

飲む専門からワイン醸造の道へ、平泉の土地にこだわり試行錯誤の日々

平泉ワイナリー たけいあきこ 武居 紹子さん

引っ越しには抵抗がありませんでしたが、空が広いことや、自然に囲まれていること、北上川の橋を渡る景色が気に入り、平泉は住む環境として魅力的だと思いました。人も温かくて、岩手には友人や親戚もないけどここなら大丈夫だという直感もありました。

2021(令和3)年夏から平泉ワイナリーで働き始めて、これまでにワインを3回造りました。ブドウの出来が毎年違うので、毎年初心者のような気持ちはです。何十年もワインを造っている先輩でも「自分はまだまだ」と仰っているのを聞き、先が長い仕事だと感じています。ワイン造りは自分でコントロールできないことも多く、ブドウの熟度や気候によって臨機応変に対応する必要があり、経験を重ねていくしかないと思っています。

「ペーパードライバーだったので初めは自転車で通勤していましたが、今は車を運転しています。初めての冬は、歩いていてもよく転びました。職場の人に雪道運転の特訓もしてもらいました」と笑う武居さん

「ワイン造りにはたくさんの方が関わります。ラベルは地元の印刷屋さん、資材はJA、電気や水道の設備会社、販売するのは道の駅や地元の酒屋さんなど、地域の中で作られます」と武居さん

ワイン造りには「テロワール」という言葉があります。ブドウ畑などの土地が生み出す味わいの中で、平泉ワイナリーは地元産のブドウにこだわり、平泉だけのワイン造りを行っています。将来は、平泉ワイナリーが飲食や宿泊などが一体となった観光スポットとして、たくさん人が訪れて雇用も生まれるような場所になったらと考えています。今、平泉の土地には白ワインが向いているのではと考えていて、ブドウの品種もさまざまに試行錯誤しているところです。理想の平泉ワインが完成するまでには、何十年とかかるかもしれません。私から次の世代へ、地域で守るべきものをつなげて、続けていくことが大切だと感じています。





平泉ってまち
みんなまち

にぎわいと交流

平泉町では平泉町学習交流施設「エピカ」や「道の駅平泉」など、町民や観光客が集い、交流する交流拠点を整備し、まちの賑わいを創出しています。

2022（令和4）年7月に開館した「エピカ」は、公民館と図書館が一体となり、多目的ホールを備えた町の複合施設です。「町の活力を生み、育てるにぎわい交流拠点」を基本コンセプトとして、「人づくりの場」「学びの場」「情報交

換の場」「コミュニティの形成・交流の場」の役割を担います。

道の駅平泉は、町内初の道の駅として2017（平成29）年4月、国道4号の柳之御所交差点そばに開業しました。キャッチフレーズは「黄金（くがね）花咲く理想郷」。道路情報の発信や国道沿いの休憩施設としての役割はもちろん、地域振興や防災機能などの役割も担っています。





町の人々の学びを支え、
交流を育む開放的な施設



平泉町学習交流施設「エピカ」

約42,000冊の蔵書や資料がそろう図書館では、一般書から児童書、町の歴史資料などが閲覧できます。子育て支援スペースは、子育て世代の交流の場となっています。公民館は300名を収容できる多目的ホールやIT室、和室、研修室などがあり、会議や研修、趣味のサークル活動、町民向けの講座などに活用されます。

静かで集中できる環境を求めて勉強のために中学生がよく訪れるほか、子育て世代や高齢者も多く利用しています。



観光情報や特産品が集まる
平泉町のゲートウェイ

道の駅平泉

物産館では地元の新鮮な農産物のほか、平泉ワインやりんごジュース、お惣菜やお弁当、パンなどの加工品などを販売しており、平泉町の物産のPR拠点になっています。地元食材を使ったレストランやファーストフードコーナーがあり、平泉町産のどぶろくを使ったソフトや、特産品の和からしソフト、金粉をトッピングしたソフトクリームも人気です。

平泉きらめき野菜デー

平泉町内産の野菜をPRし、美味しく楽しく地産地消を進める取り組み「平泉きらめき野菜デー」。毎月第1木曜・金曜・土曜に、平泉町内の推進店がオリジナルメニューを提供しており、道の駅レストランも参加しています。





平泉町

子育て世代に 優しいまち

平泉町は「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、若い世代が子育てに希望を持ち、安心して子どもを産み、健やかに育てていくことができる環境を目指して、子ども・子育て家庭を社会全体で支援するまちづくりを進めています。

基本目標1を「安心して子どもを生み育てるまち」として、「母親並びに乳幼児の健康の確保・増進」、「地域における子育ての支援」に取り組んでいます。





子育てインタビュー

2023年 平泉町に移住

石川 圭さん

長男 葉琉さん (2023年生まれ)

新規就農を目指して 移住 & 出産

2023(令和5)年2月に平泉に移住してきましたが、この1年はとても目まぐるしかったです。平泉に移住するきっかけは、新規就農です。東京で知り合った夫が平泉出身で、実家の土地を利用できるとのことから北上市での研修を経てこちらにきました。就農直前には妊娠がわかり、さすがに就農を延期しようかな…とも考えました。ですが、就農の準備が進んでいたこともあり、家族や周囲からのサポートを受け、予定どおり就農することができました。主にナスやト

ウモロコシを栽培し、就農1年目としては無事に乗り切ったと思います。

心の支えは保護者が 気軽に集える空間

子育てでは、自宅に訪問してくれる保健師さんにお世話になりました。また、平泉町保健センターで開催している1歳未満の赤ちゃんと保護者向けの「ピヨピヨ広場」にも通いました。1ヶ月に1度、身長と体重の測定や絵本の読み聞かせなどがあり、子どもが順調に育っているかどうか、離乳食はどのように進めたらよいかなど、いろいろな

悩みが相談できてとても心強かったです。また、他のママ達との会話も良い気分転換になりました。

春からは息子が保育園に通い始めますが、広い園庭と園舎でのびのび遊べる環境を楽しみにしています。町立図書館が入る「エピカ」にも、もっと行きたいですね。幼児向けのボルダリングや遊具があるキッズスペースもこれから活用したいです。平泉町は、チラシや広報による情報発信が多いですが、インターネットでも子育て情報にアクセスできると助かります。また、子どもが遊べる公園や家族が暮らしやすい住まいなど、さらに充実していくことを願っています。



ピヨピヨ広場

保健センター内に開設している、1歳未満の赤ちゃんと保護者を対象にした交流広場です。毎月身長と体重の測定をしたり、絵本の読み聞かせをするなど、育児の不安や悩みを少しでも緩和するためのスペースです。イベントなども毎月企画され、子どもたちの健やかな成長を手助けしています。



子育て支援制度

● 出産祝金制度

出生児1人につき5万円(うち商品券3万円)を給付

● 子ども医療費助成

0~18歳の子の保険診療医療費の全額を助成

● 保育支援制度

保育料が第2子以降無料

● 英語検定料の助成(中学生)

英語検定料を年3回全額助成



平泉のもち食文化

食と農の景勝地

平泉のもち食文化

平泉町や一関市には「もち食文化」が伝わります。およそ400年前の藩政時代、伊達藩では毎月1日と15日には餅をつき、平安息災を祈って神様に餅を供えることを習わしとしていました。その後は時代の流れとともに、お正月や季節の節目、祝い事など、人が集まる際のもてなし料理として餅が振る舞われるようになっていきました。

現在、この地域で食べられている餅は300種類余り。今も冠婚葬祭など改まった席では「もち本膳」が儀礼食として供され、作法が受け継がれています。

2016(平成28)年11月には、農林水産省が創設した「食と農の景勝地(農泊食文化海外発信地域)」の第一弾として、一関市・平泉町が全国5つのエリアとともに認定されました。海外も注目する日本食文化の一つとして、今後の交流人口増加への期待が寄せられています。



大文字りんご

りんごの木を植えて40周年を迎えるという大文字りんご。ヨーグルト菌を使用して栽培するのが特徴で、葉が健康に育ち、土の中でもヨーグルト菌が活着しているといいます。長島の直売所には、糖度が高く大ぶりなりんごが並びます。贈答用として関東、関西、名古屋ほかりんごの配送先は全国に及びます。蜜入りで甘く人気の高い北斗のほか、ふじ、はるか、紅

いわて、大夢など17~18種類のりんごを栽培。人気の出そうなりんご品種の研究も欠かさず、新しいりんごの苗木も植えています。「ここは日本で一番景色の良いりんご園だと思っているよ」と語る尾川馨社長。束稲山麓地域の日本農業遺産認定を受けて、今後はりんごの農業体験なども行い、美しい景色と美味しいりんごを楽しんでもらう予定です。



きんいろぱん屋

平泉町で栽培される幻の小麦「コユキコムギ」を使ったパンを製造。金色に輝く麦畑から生まれた小麦と、干しぶどうから作られる天然酵母を使用したパンは、小麦本来の特徴が強く甘みのある味わいになります。人気商品は、地元の牛乳や卵を使ったクリームパン。小麦以外の素材にもこだわり、季節の野菜など地元の食材を取り入れて、30種類ほど

の惣菜パンや菓子パンを製造販売しています。町が取り組む「きらめき野菜デー」の推進店にもなっており旬の食材がパンで楽しめるほか、世界遺産登録に合わせて考案した大根のからし漬けとチーズ入りの「弁慶のわらじパン」や、平泉ワイナリーのワインを練り込んだパンなども販売。地元の小学生を対象にしたパン作り体験にも取り組んでいます。



平泉って
みんなまち

平泉の農作物

平泉ってまち
サイト

暮らしやすいまち

隣接している一関市のJR一関駅を利用して仙台や盛岡まで東北新幹線で約40分、東北自動車道の平泉前沢インターチェンジから盛岡市までは約50分に位置する平泉町。2021（令和3）年から平泉スマートインターチェンジの供用が開始され、より便利な交通網や生活圏が構築されています。

町内ではコミュニティバスや巡回バスの運用により、町民や観光客にとって快適な公共交通網が整備されているほか、街なかではウォーキングトレイルの活用も進められています。

また地域経済の活性化に向けて、将来を見据えた企業誘致活動を行い、雇用機会の創出や暮らしやすいまちづくりに取り組んでいます。

平泉町の交通アクセス

平泉町には、南北に東北自動車道、国道4号、主要地方道一関北上線が走り、東西方向には主要地方道平泉巖美溪線、一般県道相川平泉線が走っています。これらの基幹道路につながる町道が整備され、生活圏の形成に重要な役割を果たしています。

平泉町コミュニティバス

「よしつね号」「べんけい号」 利用ガイド



コミュニティバスの運行

2022(令和4)年4月からは平泉ルートと長島ルートでコミュニティバスの本格運行を開始し、「よしつね号」と「べんけい号」の愛称で住民の買い物や通院の手段として多く利用されています。



ウォーキングトレイルの活用

環境と人にやさしい道路空間づくりとして、観光ルートと連動した歩行区間であるウォーキングトレイルの活用を進めています。

アクセスの良さ

JR東北本線、高速バスなど公共交通機関の充実でアクセスが良く、町内観光地を巡る巡回バス「るんるん」の利用で、主要観光地を余すことなく回れます。



デジタル人材の育成

町内の高田前工業団地に立地している株式会社長島製作所と連携して開催している、プログラミング講座「スパルタキャンプin平泉町」は、IT技術を習得して起業または就職したいという思いを持つ人を対象にした短期集中型の講座です。受講後の移住や起業につながっています。



企業誘致の推進

既存企業への支援や新たな企業の誘致によって、魅力ある仕事と安定的な雇用の確保及び拡充を図るとともに、性別、年齢、障がいの有無に関わらず地元で就業できるように、就労環境の多様化と充実に取り組んでいます。



平泉スマートインターチェンジ(IC)

2021(令和3)年からは平泉スマートICの供用が開始され、スマートIC周辺の土地活用に取り組んでいます。



平泉ってまち
ニハナマチ

遺跡と歴史のまち

平泉町は、中尊寺や毛越寺に代表される世界文化遺産をはじめとして、貴重な歴史文化遺産が数多く残されており、調査・保存に取り組みながら世界遺産を活かしたまちづくりを推進しています。今後も「世界遺産のまち」の責務として、「平泉の文化遺産」を未来に継承していく取り組みを推進するとともに、未指定の文化財を含めた調査研究を継続的に実施し保全に努めながら平泉の新たな魅力として活用し、町民が文化財を通して地域を知り、歴史を学ぶことで郷土への愛着と誇りが育まれるまちづくりを進めます。

利活用できる文化財

町の中心部に位置する観自在王院跡は、世界遺産に登録された構成資産の一つですが、町民に長年親しまれてきた史跡公園でもあります。地元の子どものための総合学習時の昼食会場や、学校教育と連携したキッズサッカーなどでの利用や、町民の憩いの場になっているほか、藤原まつりや納涼会、産業まつりの会場として利用されるなど、年間を通して多くのイベントが行われています。



まちづくりと発掘調査

柳之御所遺跡周辺では一関遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、1988(昭和63)年から大規模な発掘調査が行われました。調査によって多くの遺構や遺物が確認され、その価値が高く評価されるようになると遺跡の保存運動が興り、建設省(現国土交通省)などの尽力によって遺跡の保存が決定したことは、平泉のまちづくりにとって大きな契機となりました。その後、1997(平成9)年に史跡指定され今なお町内では発掘調査が行われ、当時の暮らしの様子がわかる多様な遺構・遺物が見つかっています。その代表的な遺物は、2010(平成22)年に重要文化財に指定されました(右写真:岩手県教育委員会提供)。



景観条例

2000(平成12)年に岩手県によって平泉周辺景観形成重点地域が指定され、景観形成の取り組みが強まりました。2001(平成13)年には平泉の文化遺産が世界遺産暫定リストに登録されたことを受けて新たなまちづくりの機運が高まり、「平泉の自然と歴史を生かしたまちづくり景観条例」を作成。2008(平成20)年に「平泉町景観計画」を策定しました。

2005(平成17)年から町民によるプロジェクトチームが取り組んできた中尊寺通りの電線地中化事業も2023(令和5)年に完了、景観の統一に加えて歩道を整備するなど歩きやすいまちづくりも行われています。



平泉町で行われた
愛知県幸田町の
「大風揚げ」



平泉友好の絆

【文化交流協定都市】

山形県酒田市

2023(令和5)年締結

奥州藤原氏の縁でつながる酒田市と、互いの歴史を学び、地域への愛着と誇りをもって交流を深め、未来に向けて魅力あるまちづくりを推進することを目的に、令和5年6月に文化交流協定を締結しました。藤原氏滅亡後、三代秀衡の妹の徳尼公は36人の従者と共に酒田に逃れました。従者たちは酒田の地侍「三十六人衆」として酒田湊の繁栄を築いたと伝わります。

【友好交流都市】

中華人民共和国・
浙江省天台県

2010(平成22)年締結

中国浙江省天台県の天台山の山麓に、中国天台宗発祥の地と言われている国清寺があります。また当町には天台宗東北大本山中尊寺並びに天台宗別格本山毛越寺があります。歴史的なつながりを踏まえ、12年間にわたる交流で築いてきた関係を礎に、相互の国際理解と友好親善を深め、新たな連携の構築と交流を推進するため、友好交流都市に関する協定を締結しています。



【災害時における相互応援に関する協定】

愛知県幸田町

2012(平成24)年締結

自動車部品メーカーのフタバ産業関連工場が立地していることが縁で「災害時における相互応援に関する協定」を締結。災害発生時に、被災町独自で十分な応急措置が実施できない場合、物資の提供、職員派遣、被災者の受け入れなど相互に協力し合うことで、両町の災害対策への更なる充実強化を図ることを目的としています。



【友好都市】

東京都江東区

2009(平成21)年締結

平成8年に江東区・富岡八幡宮神輿連合会の指導を得て平泉水かけ神輿が始まったことがきっかけで交流が始まり、「江東区民まつり」における特産物の展示販売をはじめ、奥の細道サミットへの参加や富岡八幡宮例大祭への相互訪問などの交流が続いています。相互の理解と信頼を深め、持続的で良好な関係をさらに発展させるため、友好交流に関する覚書を取り交わしています。



【姉妹都市】

和歌山県田辺市

1982(昭和57)年締結

有名な源平、壇ノ浦の合戦には熊野別当湛増の率いる熊野水軍が源氏方について、平氏の敗北を決定したといわれます。この湛増の子が、田辺市で生まれた武蔵坊弁慶と伝えられています。また藤原秀衡公は熊野三山にこのほか信仰が厚く、奉納した太刀が重要文化財に指定されています。弁慶が義経の家来として秀衡公を頼って奥州入りした時から、田辺市と平泉町は深い縁で結ばれています。

ふるさと平泉会は東京都およびその近県に在住する平泉町出身者と、会の目的に賛同する人によって1993(平成5)年5月結成。活動は会員相互の親睦を図り、情報交換を活発にすることや、郷土平泉町の発展に寄与することを主な目的としています。

ふるさと平泉会

1993(平成5)年結成

- ◆会員数 85人(2024(令和6)年3月現在)
- ◆主な事業
総会および懇親会の開催(6月) / 役員会の開催(6月・2月) / 会員拡大の推進活動 / 広報ひらいずみ「ふるさとメッセージ」への寄稿 / 会員へのふるさと情報提供 / 平泉町で開催される事業の推進 / 岩手県人の集い『県人会総会』への出席



平泉町
観光大使

- 西村専次様【ふるさと平泉会 会長】
- 菅原哲朗様【元日本農業新聞社社長】
- 高橋富雄様【富岡八幡宮神輿総代連合会 顧問】
- 武田双雲様【書道家】
- 星吉紀様【音楽家「姫神」】
- 大沢桃子様【歌手】
- 金澤未咲様【歌手】
- スローン・サーミュエル・エリス様【元町国際交流員】



平泉町章

平泉の『ヒ』と『ラ』を兼ね飛鳥形意匠に象り、町勢将来の雄飛、発展、福祉向上、融和、協力、団結を力強く表現したものです。

平泉町民憲章

昭和60年4月1日改訂

- わたくしたちは、
奥州藤原文化発祥の地、
平泉の町民であることに誇りをもち、
互いの信頼と融和を基に、
平泉町が美しく豊かに
発展していくことを願って
この憲章を定めます。
- 一、わたくしたちは心と体をきたえ健康づくりにげみます
 - 一、わたくしたちは自然と文化を愛し住みよい環境をつくります
 - 一、わたくしたちは仕事にげみ生産の向上をはかります
 - 一、わたくしたちは先人の偉業をたたえ文化財の愛護につとめます
 - 一、わたくしたちは互いに助けあい福祉の心をそだてます

平泉町の花鳥木

昭和60年4月1日改訂



町の花 さくら

昔から平泉の花として、歌にうたわれており、古都平泉を印象づけるにふさわしい花である。往時の平泉を再現することにより、歴史の町にふさわしい美観を期待し、町の花に選定する。

町の鳥 うぐいす

鳴き声、姿ともに優雅であり、町民の耳目にも多く接し、自然愛護の心を育てるのにふさわしい鳥である。美しい自然が、いつまでも残ることを期待し自然の豊かなところに住むうぐいすを町の鳥に選定する。

町の木 すぎ

自然と調和し整然と天に向かってまっすぐに伸びている姿は、歴史の重みと気高さが感じられ、町の木としてふさわしいものである。限りなく躍進する本町の象徴として町の木に選定する。

「平泉町のSDGs」オリジナルロゴマーク



過去に学び、今を見つめ、未来を考えるまち
SDGs 平泉



過去に学び、今を見つめ、未来を考えるまち
SDGs HIRAIZUMI



過去に学び、今を見つめ、未来を考えるまち
SDGs ひらいずみ

HIRAIZUMI SDGs LOGO DESIGN PROJECT

子どもたちが持つアイデアを持続可能なまちづくりにつなげる「中学生アイデア実現プロジェクト」で、町内の中学生が町のSDGs推進のシンボルとしてデザインしたロゴマークです。

岩手県平泉町町勢要覧 2024

発行・岩手県平泉町

〒029-4192 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山 45 番地 2

TEL : 0191-46-2111 FAX : 0191-46-3080

E-mail : kikaku@town.hiraizumi.iwate.jp

URL : <https://www.town.hiraizumi.iwate.jp/>



印刷・川嶋印刷株式会社